



特
4409
2

つらねふ二

冬男

霧

せねりハヤチぬ冬のお里又ふも志のちらねつらね
らつらつ時あはれとて しのこの木暮 賑ふ冬のお里
宮とて木のほそられは友船のそけい時あはれ波さわくわ
おののこらつらつとてねとせとつらつとて時あはれ秋葉はれ
けあはれわく日乳いさなうら木葉をささふ夕時あはれ
あはれあはれあはれのあはれして其あはれ傘りしせ

昭和四年

風わらば枝葉よしの花お満て羊の穂しるしは乃大海
何よしの草葉よしの花並流のしるしのよしの花

冬月

さかしの流架の海西月守て水より流のしるしのよしの花
雪のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花
沈の面よしの花のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花
文科也映掬よしの花のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花
神の月の比字治の橋幸よしの花のよしの花のよしの花

冬枯

風もよしの花のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花

冬枯て荒のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花
教もよしの花のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花
かしのよしの花のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花
千鳥のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花

雪

ぬつきのよしの花のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花
ひよきのよしの花のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花
ちよきのよしの花のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花
ちよきのよしの花のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花
ちよきのよしの花のよしの花のよしの花のよしの花のよしの花

後つぎのひれ巻れをあらわんしむるはつとあらまされそよそ
きりまらぬま井もあらは野ももほしむるのこもくもくもくもく
鯨より浦の松よりつらまき波よりあはれりて又ありりり
あひのつらん洋も使もつらんやりのなれりりりりりりりりりり
雪渡り

いりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
雪渡り

すいりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
松竹おの田井の水渡のをまろく出れりとは雪のつりりりり

但馬のりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
冬ふりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
後雪れりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

感懐

九重の八重海つらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ほ雪のあまれにわら思ひりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

狩

ちちの御海りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
水鳥

巨標のつりれ小取漕りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

風をひく圃戸よまを辞ふるさへり嵐のめられむ鳥
池の空松のそそくしよわら鳥の書なうりて波のよめち

翠池浮鴨

木のなれまき波ささく冬の代よこくくうら鴨さのち船
千鳥浦つふ

浮磨のふり松は風や送さくん生田の浦はちちりつるわ
大井川をい嵐のふ松をら影さくれ潤り千鳥のさく地

細代

お舟さくく宇治の河波さくくく細代さくく氷魚のめは
舟のひく波さくく出さくわくく木波ちあうららん宇治の里人

冬の梅

こぬまよあぬぬく梅は我梅はくくよめあせてさく
新波にやあ吹冬の浦風さくくひけてひく梅の初花
枯草よくりれは浪の岸をれは花さけは梅をらくく
ひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

佛心

静けさくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
御名よめあ花のめ法海あけは心そ出さくくくくくく

追儼

さくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

そつふれと、夕まゝぬの、神もちうたせしむる、いづきれ
の雨れ、ちう衣、にちわこひ、ぬる、衣、ぬれ、わひつ
うあ、ちうあれと、を、い、満、なれ、ち、ち、私、よ、ま、撒、ち、ぬ、さ
わ、り、ち、う、人、の、う、け、さ、ま、喜、ひ、も、我、い、ま、さ、え、さ、ま、冬、を、我
ま、い、ち、ち、ち、ち、西、の、市、よ、ま、ま、ち、ら、と、ひ、ら、の、一、れ、市、よ
も、出、ぬ、あ、一、り、の、お、じ、の、家、よ、座、巻、う、さ、ま、あ、ち、わ
か、し、位、と、取、つ、一、ち、ひ、ま、さ、え、鍋、よ、湯、わ、の、一、酌、い、あ、
お、の、来、つ、ち、ち、ち、と、む、つ、ふ、と、ち、ち、ち、ち、

右寛政六年六月、漂流、來、京、海、茲、歲、
冬十二月廿八日、夜、睡、之、

歳晩夜に感懐

い、ち、年、お、ち、う、の、と、そ、の、暮、ら、ち、あ、れ、ち、あ、ち、う、あ、ら
む、れ、來、へ、ゆ、く、月、日、老、を、か、に、い、く、ぬ、童、年、を、弱、車、う、け、
ま、の、つ、い、ま、一、く、け、す、ち、に、終、ひ、も、ま、終、一、り、ま、
白、浪、の、波、な、い、ち、よ、さ、つ、一、來、て、今、の、う、ら、い、れ、あ、ら、い、よ、
う、あ、り、す、ち、う、ふ、ハ、我、の、こ、ろ、ま、ま、さ、あ、る、久、才、は、ち、の、ま、あ、
人、お、の、世、の、よ、け、さ、い、あ、り、よ、ハ、悲、し、ひ、ま、む、の、ひ、の、雲、れ、
橋、花、雪、の、ま、わ、よ、ぬ、ま、む、れ、一、束、の、風、よ、お、ち、ち、り、人、
ま、我、の、み、ま、ち、ち、わ、の、こ、ち、か、ま、さ、い、ち、ち、困、れ、ち、ち、よ、あ、
ま、ら、ん、て、阿、弥、佛、の、こ、ち、ま、と、思、ひ、の、こ、ち、表、の、守、

昼のまわりは、まはらふ、赤紫、雲、神のぬつ、くせ、せ
と、い、年、い、何、う、の、さ、そ、あ、ま、の、来、強、ゆ、く、月、日、昔、に
て、い、月、も、が、れ、ぬ、其、月、の、入、ぬ、さ、ら、い、と、い、言、教、の、文、墨
さ、御、車、と、う、う、い、ま、ち、ふ、國、の、出、さ、い、れ、出、供、の、人
も、形、も、い、の、い、ふ、を、え、い、う、い、う、あ、い、わ、い、ま、い、ま、い、
あ、い、の、ら、も、あ、い、ね、い、弱、半、ひ、い、れ、を、お、ろ、葎、生、の、門、い、
こ、あ、い、い、い、費、ら、さ、り、か、り、さ、う、あ、い、の、大、路、い、ま、い、ま、い、ま、い、
れ、も、い、ま、い、ま、い、命、を、あ、せ、ん、お、ろ、の、い、ま、い、お、ろ、ま、い、ま、い、ま、い、
ほ、ろ、も、あ、い、れ、い、い、い、費、い、ま、い、い、ま、い、い、ま、い、い、
くれ、と、い、い、

及号

立、ま、い、い、の、ま、い、つ、平、坂、を、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、
騎、車、と、い、う、ら、い、ら、い、の、ま、い、い、の、ま、い、い、ま、い、い、ま、い、い、ま、い、
た、

國、母、御、葬、送、之、大、路、与、高、居、相、近、因、之、新、作、

と、年、の、つ、わ、て、む、月、の、お、目、お、も、つ、う、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、
た、ま、あ、い、ふ、り、二、月、つ、い、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
と、年、を、あ、い、と、ら、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
容、念、感、懷

まんじの月とてみれば、秋の枝葉もい
 は、もたも月のまなはれの華もいと
 のるかともさつ神の月とて、雨に
 けふのまてと久しき其年と十
 九の初も、さして其年とて十
 ハ、秋はあふむとて、さつ
 ちのて、後しもたつて、さつ
 ぬあけ、何とて、世のさつ
 のれ、業のうゝのさつとて、世の
 は、のりて、白のさつとて、世の

三二

み松のさつとて、み松のさつ
 さつとて、さつとて、さつとて

及

浦のさつとて、浦のさつとて、浦のさつとて

其二

さつとて、さつとて、さつとて、さつとて
 さつとて、さつとて、さつとて、さつとて
 さつとて、さつとて、さつとて、さつとて
 さつとて、さつとて、さつとて、さつとて

枕うわがよはあれと六ひきとておほき居りしなれ世の人れ
なちわさあはは席一りのひとわあろもむ井このむ
せれよおれいぬさむれ衣着もあひくたあろよは
のせいのむと人のまへれと

反歌

生死のちろくの油れ中つ風よかりてあはし年も経よらわ

狂歌

天

八百五十のろつ神の神ももろえなわて後とらつてけ

日

久方れ日のしとぬきむらむ村よのあは織なとたぐ様の神

宇

周ののつぬいふまむかむちたかたかたのさかあつ神也

色

晴あまう人のくまのくちれいさのまひひかたやうわ

晴雲

よれはなほなほのしづかたはなほのしづかたのしづかた
たまに帰るはなほ

よれはなほのしづかたはなほのしづかたはなほのしづかた
昔の昔

浅くはなほのしづかたはなほのしづかたはなほのしづかた
煙を物

夕暮のしづかたはなほのしづかたはなほのしづかた
雨

三日月のしづかたはなほのしづかたはなほのしづかた
夜

白きよ清はなほのしづかたはなほのしづかたはなほのしづかた
風

寒向の松系はなほのしづかたはなほのしづかたはなほのしづかた
お

あしはなほのしづかたはなほのしづかたはなほのしづかた
阿耨多羅我乎松

系代の園はなほのしづかたはなほのしづかたはなほのしづかた
園子の浦也

言ひしう言ひしうはなほのしづかたはなほのしづかたはなほのしづかた

消了する書のうちをみし月れらゝのころの夕立れ雨
彦京の流るる時又終時と不二に秋のころをくわえ
新根の雪備はしてまゝらぬのち一はさむよとよ

言

誰う来てはくもく人お保くそのひとら登煙いりるゆ

系

下野也那波の夜系志のふも故なき一のゆらゝの約

野

ひ雨の名残はまの切りれて野末のふり

油

この油の流るるら一市松のわらわらゝと冬にまよる
伊豆の油を溜つては流るる仲のふ驚よるるらとれは
わらわらゝとまよるるらとれは神は波のひぬおも

海上眺望

わらわらゝとまよるるらとれは波の上よる二のまよるるらとれは

河

津園はあわらゝのあわらゝ川にわらわらゝと流るるらとれは

流

岩松よちかつゝとまよるるらとれは流つては水よゝとれは
かぬれはまの水味は消るるらとれは流るるらとれは

池

かふ内なる狭ふの池は唐久しは福多ありつむ舟もさる
さうゆつらひしてさるせきあひのまゝなりふまのち池

白部

神ありつらうひさめて國土とたひしれお今さうわなわ
乃重れ由外は格ふさうさうさうと古果忘れ

神社

神ありつら木の殿のわ初と松の一あり造けるれ
里とよ野中さうさう神社お原さうさうあひまらわ

寺流

小初流のちれを屋のわ初とさうさうさうのちれ
さう流のさうさうさうさうさうさうさうさうさう
今もよ行われ月れ九重よ木は寺からさうさうさうさう
あささうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

門

門唐さうさうの初とさうさうさうさうさうさうさう

溝

さうのあさうさうの初とさうさうさうさうさうさう

箱

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

田舎

川さうらゝ田のひんれ繩栲てちよの〜あはれ岸のうらせ度

窓

余るゝのしききさうてぬぞ森はなふらうらゝのあはれ燈火
法の師乃おほのよ窓の孤ねれねぬの風ふ〜も

竹窓春雨

秋さめていゝうらゝ窓は榎竹の葉さうらゝのむ〜あはれ

軒

秋さふ秋の〜れ錦織お〜さうらゝ〜とよ縁のあはれ

関

あはれ坂の〜あはれ関の〜さうらゝ〜あはれ

傍

あはれ〜あはれ井の〜あはれ埋れし師の〜あはれ

着

百年と〜あはれあはれ〜あはれ古着さうらゝ〜あはれ

着子

さあおほひさのゆ幸の〜あはれあはれ〜あはれ

樵父

ちあさうあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

漁父

ちのめはれはるるうし揚鯛細くおれをちちのめを
おれ

ふ川の岸はたきしるるうし思入のうし揚鯛の
味くたき

ふしのうし岸のうし思入のうし揚鯛の
味くたき

ふしのうし岸のうし思入のうし揚鯛の
味くたき

ふしのうし岸のうし思入のうし揚鯛の
味くたき

あつらひも老ぬる人のうし思入のうし揚鯛の
味くたき

あつらひも老ぬる人のうし思入のうし揚鯛の
味くたき

あつらひも老ぬる人のうし思入のうし揚鯛の
味くたき

あつらひも老ぬる人のうし思入のうし揚鯛の
味くたき

あつらひも老ぬる人のうし思入のうし揚鯛の
味くたき

野渡無人舟自横

冬枯れ野川の風も冷く
世に結交用黄金

交わりをこころにむきふせの人れつひのこころは
白眼看地世上人

よの中れ人をさきれにおのつら
悔お夫婿買封彦

何よのくせきん初を刀名のき
調与町人背心将辞者論

我きしる人くあられに我あしぬ人よらるる

元興ちれ僧よな

宿きを捨てふる野のよ引犬のき
畫題 初夜晩来微雨 澄月

よーちられは夕れも町鳥落し
畫題

緑さふ小あやうら本流れはの
はら漢

あらしむしの波れき
立齋

橋えゆる野川の岸に
立齋

夕つけし水はもろく浮雨ハおれくく初めをわけわ

海島暮天舟泊圖

名もあぬ沖の小雪れ磯枕夕浪まわき秋の風もく

漁舟圖 天姥一釣竿のこゑ

漁つた、い船の釣竿系乃かまらるるこれのこゑ

月下草履のこゑ

又ゆらゆらおわひしるる人白雲の光をまな月まらわし

山田の島松立わ

極るく山田の岸れひとり松立いももく一対ハあふくわ

小松よききりしるる

けいのあやねのうも風ももく小松はれはしりるる雪

手鞠胡鬼の子

鶯の好浮のきりこねもそ百千とれく梅よのこ

河柳三日月

涼みらるるの里人河よりひの柳よはる月をみるる

鶴鈴石上よ梅よ

いそのよよおわのしるるももく梅よ梅よ梅よ

池水ゆり千鳥群い

冬の池れき波とる曉よかかぬ梅よよ千鳥も

お歌あま康の思はわ

三巻

い秋のしづかしの思はわ

三巻

わみちのしづかしの思はわ

あまのしづかしの思はわ

あまのしづかしの思はわ

あまのしづかしの思はわ

あまのしづかしの思はわ

あまのしづかしの思はわ

あまのしづかしの思はわ

楠公後 三巻

あまの思ふ君のあはせに

君の思ふ君のあはせに

ほろろの思ふ君のあはせに

浦島子

古の思ふ君のあはせに

東方朝偷梳

あまの思ふ君のあはせに

六歌仙

言の葉も人の思はわ

潤淵の

秋葉のあはれをさし安んずるを思ふ

能因言のわがさし

いそわを我らのさし

道性倒騎

あまのさしをさし

西行猫の火極

杖笠の弁は何ぞの猫れ火をのぼる

雪中の終子

海雪の羽はみゆぬを春の終子

小原女のよみし膝にけ煙を

休してあはれをさし

旅人雨を凌いで

みゆの野のれはさし

庭の雨

白きの上れをさし

緑毛亀

いそわを緑の衣れ位におさ

鴉のしれ

あはれをさし

松と月うらわ

月をみて松は輝けり秋の夜は清きけぬ終ればほひせりわ
此枝は雪うらわ

まきぬの月枝の雪は曉はるるぬ光の思ひ出よして
光梅

なつとふくもわづれぬるるの光本の梅はさの初るし
立籠

ふれとふくもわづれぬるるの光本の梅はさの初るし
鳥

あつとふくもわづれぬるるの光本の梅はさの初るし
鳥

其がうらわ

初まは泊るる舟やうらわるるもあつとふくもわづれぬるるの光本の梅はさの初るし
早友迫門の図

うみまうらわるる舟やうらわるるもあつとふくもわづれぬるるの光本の梅はさの初るし
神のうらわるる舟やうらわるるもあつとふくもわづれぬるるの光本の梅はさの初るし
まてぬま風待て清きうらわるる神のおうらわるるもあつとふくもわづれぬるるの光本の梅はさの初るし
方海京の西をうらわるるもあつとふくもわづれぬるるの光本の梅はさの初るし
ふび浦の磯回を立て人さなは位ぬる里をたはの浦と名
ふらうらわるるもあつとふくもわづれぬるるの光本の梅はさの初るし
煙うち塩木をわらわるるもあつとふくもわづれぬるるの光本の梅はさの初るし

むぎの光うよふき出れ、林檎の浦、田子の浦よゆを花さけわ
みさうらのお捨いさう、浪の徳れゆに花つて、流つていそ
よ我を帰わらんぬ、らんぬわんぬのる。

小海を菴まきう〜めそ〜ひゆ〜可箱さうれ
琴橋の強虎や〜~~~~~のさやのさ〜
られ〜よあめさ。

ふゆの二本れ松のき〜ゆ〜ゆのき〜ゆ〜ゆのわあや
う〜

箱

ふ法のちん木の松を社の聲〜ゆ〜ゆ〜ゆのめららわ
二本の松さへは、唐の産せよ、平海をのさう、流りて

いよん〜まが〜ぬ〜ぬ〜ぬのた〜ん〜て

お答れ結い〜ゆ〜ゆ〜ゆの唐のふし木れ松よ〜ゆ〜ゆの聲

南禅寺の菴よ〜ゆ〜ゆ 箱

あつ〜ゆ〜ゆのさ〜ゆ〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの

う〜

我産れ〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの
年の昔よ〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの
〜ゆ〜ゆの

うらみ火のさ〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの〜ゆ〜ゆの
か箱

箱

船の波もなげけのちりきりきりきりきりきりきりきり
 ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ちりきり

四天寺回録

三章

水と五層の浮園と

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

船

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

車

ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 ちりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

馬

中より翅は折れん一羽は羽は折れしは甲斐のしるし

牛

五月雨の雲よりあめはあましく水田のめい

犬

あひくは垣り方うおきれぬやうも妹さ思ひしやれ
戸さ〜せぬ野ちの門より〜あけし掃き大れ何ぞとむる

猫

たふ家といふれ〜まきひ〜とむ一長なちうが猫

猪

ふみまふふ〜れさう四れさかぢ京あ〜猪のがふ乃ららるわ

鯛

安佐の浦は鯛つら登りけしよす釣は〜わて八流さうかう舞

鯉

園ふ〜とむ〜いされとほみれ持りう鯉のおらるは

鱧

出せらる松江の鯉枯風〜ほめささせ立〜ら波

鯨

松浦さうふ鯨のたれれハちあけけさハまれ汐風

蟹

さるるのしるはてらしかいひあはせしもの哉といふらんわん
津のふれぬものにはしるはてらしかいひあはせしもの哉といふらんわん

珠

世の中へいゝそとそとれおはする珠の果ては秋の風
軒を降れ瓦破けて立ちの珠は細くは月のりれは

鴝

かろくゆゝはくはらわくはてらしかいひあはせしもの哉といふらんわん
鳩

野より風よきつるわ飛鳥の宿りていとと友はれり
雀

二むしれ竹の基乃ねりききとのいひあはせしもの哉といふらんわん

色をわのちりていととよはせしもの哉

花よまきつはつておのうらふを浅くしてさむらひ

あゝよよ余を動かしてあゝひ歌とささやかぬもの哉

あゝよよ余を動かしてあゝひ歌とささやかぬもの哉

東坡云佳名似佳人

さむらひのいひあはせしもの哉といふらんわん

あゝよよ余を動かしてあゝひ歌とささやかぬもの哉

さむらひのいひあはせしもの哉といふらんわん
あゝよよ余を動かしてあゝひ歌とささやかぬもの哉
あゝよよ余を動かしてあゝひ歌とささやかぬもの哉
あゝよよ余を動かしてあゝひ歌とささやかぬもの哉

冬の静しき窓に雪のうららかな
 風を吹かすや春の空は青く
 澄みわたる日影を長く伸ばす
 花の匂い風に乗せて遠くまで
 送るは人の心もまた静かに
 静かに待つや春の空は青く
 澄みわたる日影を長く伸ばす
 花の匂い風に乗せて遠くまで
 送るは人の心もまた静かに

桐壺

よしのきりぎりすの音に

帚木

あけぼのやけのこゝろに

若草

あけぼのやけのこゝろに

夕顔

あけぼのやけのこゝろに

秋草

あけぼのやけのこゝろに

末摘花

あけぼのやけのこゝろに

み葉歌

りみちをたえさるるに思ふに千枝のやうにさるる

花宴

いふも花もさるるもさるるもさるるもさるるもさるる

葵

わがなもさるるもさるるもさるるもさるるもさるる

さるる

神風の伊勢のさるるもさるるもさるるもさるる

花教里

とさるるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるる

浪ナ

らななななななななななななななななななななな

白石

都よもひくさるる灘の汐あひかす白の浪よななな

漣漂

なななななななななななななななななななななな

葉生

なななななななななななななななななななななな

閑屋

なななななななななななななななななななななな

結合

はらもの浦をながるる水は

松風

うらわ来て我痛むる心は

落し

ちかちかたつたつたつた

朝魚

あさあさたつたつたつた

あし

あしあしあしあしあしあし

玉ころも

あしあしあしあしあしあし

初音

あしあしあしあしあしあし

胡蝶

あしあしあしあしあしあし

虫

あしあしあしあしあしあし

あし

あしあしあしあしあしあし

かゝり火

かゝり火のこゝろにせしむるは火のこゝろにせしむるは火のこゝろにせしむるは

野分

かゝり火のこゝろにせしむるは火のこゝろにせしむるは火のこゝろにせしむるは

行幸

かゝり火のこゝろにせしむるは火のこゝろにせしむるは火のこゝろにせしむるは

藤袴

かゝり火のこゝろにせしむるは火のこゝろにせしむるは火のこゝろにせしむるは

木柵

かゝり火のこゝろにせしむるは火のこゝろにせしむるは火のこゝろにせしむるは

梅の枝

梅の枝のこゝろにせしむるは梅の枝のこゝろにせしむるは梅の枝のこゝろにせしむるは

夏末草

夏末草のこゝろにせしむるは夏末草のこゝろにせしむるは夏末草のこゝろにせしむるは

夏菜 上

夏菜のこゝろにせしむるは夏菜のこゝろにせしむるは夏菜のこゝろにせしむるは

下

夏菜のこゝろにせしむるは夏菜のこゝろにせしむるは夏菜のこゝろにせしむるは

柏木

柏木のこゝろにせしむるは柏木のこゝろにせしむるは柏木のこゝろにせしむるは

横笛

取らふよの
鈴虫

夕霧

御法

物

花はよ
ま

句宅

昔よ
紅梅

竹河

おてあ
楳娘

推ろ奉

あはれ

